

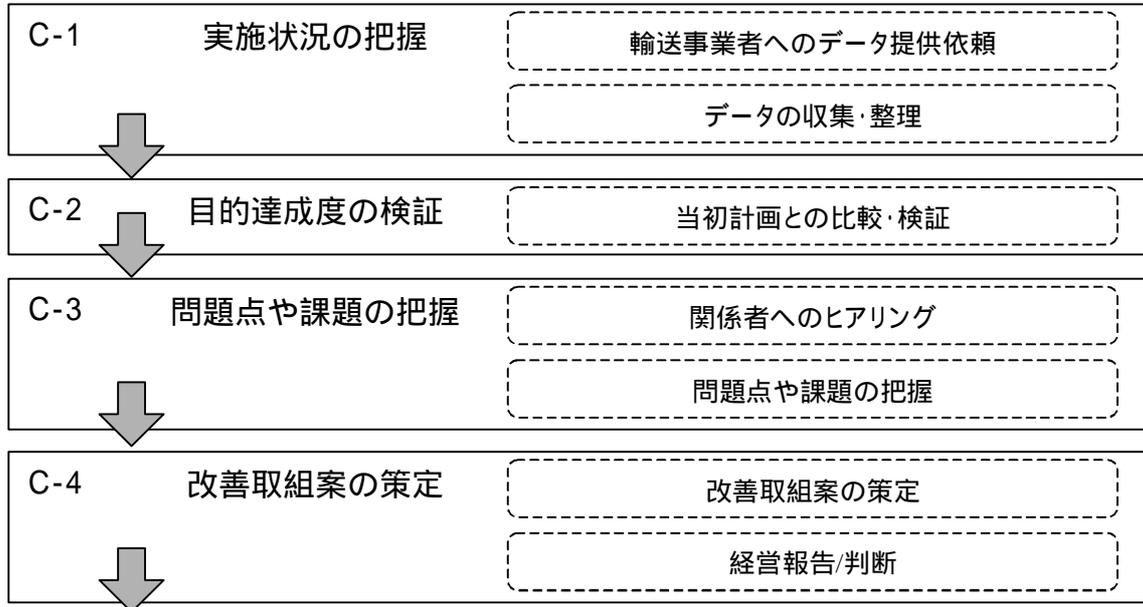
CHECK

・確認 CHECK ～実施後の進捗把握とフォローアップ～

輸送機関の選択、つまりはより環境負荷の低い輸送機関へと変更するモーダルシフトを実施する上での確認段階における検討プロセスについて記載します。

「確認」の策定は、下図の通り5段階で実施しましょう。

図 輸送機関の選択（モーダルシフト）のDOの流れ



## C-1) 実施状況把握

### (1) 輸送事業者へのデータ提供依頼

輸送事業者に実施状況を把握するためのデータ提供をお願いします。具体的には計画(PLAN)での検討時に作成した表を埋めてもらうのが有効でしょう。

図表 13 提供を求めるデータイメージ

起点	終点	輸送機関	距離			輸送時間			コスト			CO2 排出量
			合計	末端 輸送	幹線 輸送	合計	末端 輸送	幹線 輸送	合計	末端 輸送	幹線 輸送	
東京	福岡	鉄道	1,196 km	11 km	1,185 km	22 時間	4 時間	18 時間	135 千円	40 千円	95 千円	214 kg-CO2
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

### (2) データ収集・整理

輸送事業者から収集されたデータを整理しましょう。データの提供依頼通りに収集ができれば、効果の検証も簡便にできます。

#### Check !

<p>データ収集は実施しましたか？ 計画(PLAN)時の検討を活かして効率的に実施しましょう。</p>	
---	--

#### Point

<p>基本的には計画(PLAN)時の実態把握がなされていれば簡便に実行可能です。当該ステップを参考に実施しましょう。</p>
--

## C-2) 目的達成度の検証

### (1) 当初計画との比較・検証

実施状況把握から得られたデータと、当初計画である計画(PLAN)の最終取組案とを比較して目的の達成状況を確認しましょう。十分な効果が現れていない場合はその理由を明確にするために次ステップから改善取組案の構築と実行に進みましょう。目的が達成されていれば関係者への次ステップのみを実施しましょう。

### C-3) 問題点や課題の把握

#### (1) 関係者へのヒアリング

関係者へのヒアリングから実施状況や問題点、課題等を把握しましょう。実行(DO)で対策チームを設置していれば、ここへのヒアリングからかなりの状況は把握できるでしょう。なお、当面は新たな内航海運や鉄道輸送を担当する輸送事業者とは定期的に話し合いを設けて、仕組みの定着や改善を図ることが有効です。

#### (2) 問題点や課題の把握

関係者へのヒアリングから何故、目的が達成できなかったか問題点や課題を明らかにしましょう。

#### Check !

関係者へのヒアリングは実施しましたか？ 計画(PLAN)時の検討を活かして効率的に実施しましょう。	
目的が達成されなかった理由は明確になりましたか？	

#### Point

基本的には計画(PLAN)時の実態把握や、実行(DO)時の対策チームの設置がなされていれば簡便に実行可能です。当該ステップを参考に実施しましょう。
---

## C-4) 改善取組案の策定

### (1) 改善取組案の策定

前ステップの問題点や課題から改善取組案を策定しましょう。具体的には問題点や課題の内容から計画(PLAN)の輸送機関の選択、その他留意事項の詳細確認のいずれかのステップに立ち返り、改善取組案を策定しましょう。

### (2) 経営報告/判断

改善取組案をもとに経営陣によって実施の可否を判断しましょう。効果とそれに対する費用や負担を明確にしましょう。負担は社内、輸送事業者、顧客、とその範囲が広がる場合は明確に示しましょう。

#### Check!

改善取組案は策定しましたか？	
----------------	--

#### Point

基本的には計画(PLAN)時のステップを参考に実施しましょう。改善取組案が承認されれば、実行(DO)のサイクルに移行して実行しましょう。
--

図表 14 改善取組案の構築に向けたチェックシート（例）

C02	物流コスト
現状：	現状：
目標：	目標：
結果：	結果：

発地：
着地：

チェック項目	実態 目標の達成状況（指標）	問題点や課題	改善取組案	実施主体
納期 リードタイム	遅延率（納期 30 分以上遅れた比率）： 5% 平均リードタイム：23 時間 最大リードタイム：26 時間 計画リードタイム：24 時間	踏切事故や信号等の故障で鉄道の遅延が生じた。	JR 貨物からの遅延情報を活用して緊急輸送体制を構築する。	ロジ・物流部門
距離				
重量				
ロット（積合せ） や荷姿（縦横高）				
振動衝撃	破損率（件数）：2 件	コンテナを開いた段階で破損が発覚したが、破損箇所は不明。破損の内容は・・・。	当面はコンテナに衝撃を計測する機器を設置し、破損の可能性の高いプロセスを検討する。 JR 貨物及び通運事業者に丁寧な取扱いを要請する。	ロジ・物流部門 輸送事業者
温度管理				
運行パフォーマンス	平均積載率：75% 最大積載率：95% 計画積載率：80%	当初計画よりロットがまとまらず積載率が低下している。	隣接する佐賀県の貨物も混載し、積載率を高める。	ロジ・物流部門 販売 顧客
リスク対応				
その他	誤配率（件数）：0 件			